



井の頭自然文化園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭

吉祥寺

三鷹

36号
2017年9・10月号

2017年(平成29年)9月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 発行
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園 100と4
周年 九月

井の頭池はカイツブリのヒナ達が独立し、子連れのサギ達も戻り賑やかです。カワウのペアがいますが、かいばりのお陰で餌が足りているのか、のんびり住み着いています。アオサギ爺さんは弁天様に平和な池の様子を報告しました。「タヌキの親子はどうしています。」と弁天様は尋ねられました。

絵せのうさこ 文瀬能けい子
せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION 2017年9~10月

井の頭自然文化園

●彫刻館特設展「はな子のいる風景」
吉祥寺美術館と井の頭自然文化園共催プロジェクト「はな子の記録と記憶を集める」応募写真の一部を展示します。
期間：9月9日(土)~10月15日(日)

●彫刻館特設展「~鳥たちへのおくりもの~谷口高司野鳥原画展」
貴重な野鳥の保護のために各地で取り組んでいる様々な保護活動を紹介しつつ、臨場感あふれる野鳥原画を展示します。
期間：10月17日(火)~12月3日(日)

◎谷口高司 東洋館出版社「絶滅危惧種日本の野鳥」より

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

●「井の頭100祭」100th Anniversary
井の頭公園は、本年5月1日に開園100周年を迎えました。今まで100歳の誕生日に向けて「井の頭100祭」を毎年秋に開催してきましたが、100周年を迎え、8回目となる今年は、個性的なステージパフォーマンスやワークショップ等に加えて、「ひやくさいくんとあそぼうコーナー」を新たな企画として加え、どなたでも楽しんでいただけるプログラムとなっています。

期間：10月21日(土)・22日(日) 11時~16時(少雨決行)
場所：井の頭恩賜公園 野外ステージ広場及び井の頭池周辺

井の頭かんさつ会

●第149回「虫をさがそう」 9月24日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

I級渡邊安浩 のいのけん受験講座答え合わせ

Q1. 家光 Q2. 26、深川水船 Q3. 本所・深川 Q4. 淀橋浄水工場

井の頭公園開園100周年を祝して待望の2冊刊行

井の頭公園100年写真集
2,800円+税
日本で初めての郊外公園として誕生した井の頭公園の100年の変遷を紹介するもの。

井の頭公園いきもの図鑑
1,600円+税
井の頭公園にこんなに生きものがいるなんて！自然好き、生きもの好き、井の頭公園好き必携の一冊。

2017 5/1 発売

お問い合わせ
ふんしん出版
☎0422-60-2211

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その16

ホンドギツネ と 森 翔生さん

「狐の嫁入り」に「きつねうどん」、「狸と狐の化かし合い」など、数々の言葉や民話に登場するキツネ。でも目撃情報を聞くことはほとんどありません。飼育員の森翔生さんは「キツネはタヌキより人里離れた森のほうに暮らしています。それに神経質な動物なんです」と言います。

本州、四国、九州に生息するホンドギツネが井の頭自然文化園に2頭います。保護されて、文化園にやってきました。5月に来園した2歳のメスは、展示場の隅っこの岩場に張り付くようにして1日を過ごします。「夜行性ですけど、この子はまだ緊張していて、日中ずっと起きています。私の前でエサを食べるようになるまで、1ヶ月半かかりました」と森さん。古株の14歳のメスは余裕しゃくしゃく。朝、展示場に出そうとしても、気が乗らない日は耳だけ動かして様子を探りつつ、顔は伏せたままにするのだとか。「キツネなのに、狸寝入りするんです」

野生では、春は小動物、夏は虫、秋は果物など、季節の産物を食べるけれど、飼育下では果物より断然肉類が好き。「音もなく歩き、気づくと近くにいることがあってびっくりします。イヌ科だけれど、ネコみたいです」。馴染み深い外来種だからこそ、本物の生態を見て、自然環境に思いを馳せてほしいと、森さんは考えています。

小田原 濤 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

彫刻館のアジアゾウはな子の銅像原型

吉祥寺駅前で行く人々を見守っているアジアゾウはな子の銅像。多くの方々が記念撮影をしたり、銘版をじっくり読んだり、吉祥寺の新たなスポットとして認知度が高まりつつあります。

そんなはな子の銅像のFRP原型が井の頭自然文化園の彫刻館B館にある事をご存知でしたか？

銅像には、型を取るための原型があり、万が一破損等した場合は、この原型から再び製作する事が可能になります。そのため、長期間保管しておく必要がありますが、せっかくの原型を倉庫の片隅に置いておくのはもったいないとの武蔵野市からの打診もあり、はな子の暮らした井の頭自然文化園でお預かりする事になりました。

彫刻家・北村西望氏の作品群に囲まれた静かな彫刻館。街中にはな子よりも少し落ち着いた見える気がします。

もう一つのはな子像に是非会いに来てください。

彫刻館B館の閉館時間は16時30分となっておりますので、ご注意ください。
(井の頭自然文化園への入園および入園券・年間パスポートの販売は16時まで)

井の頭公園の生き物たち その36 アブラコウモリ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。

コウモリが出す超音波を人に聴こえる音に変えてくれるバットディテクター(コウモリ探知機)を使えば、コウモリが超音波のパルスをもどのように使って虫を見つけ、どのように位置を絞り込んで捕まえているのかよく分かります。どこにどのぐらいの数のコウモリが飛んでいるのかも分かります。身近にいるのに知られていないコウモリの観察は8月の観察会の人気のテーマです。ところが、今年は空振りでした。コウモリがほとんどいかなかったのです。じつは、コウモリの減少は今年始まったことではなく、昨年も少なめでした。

考えられる原因のうち明らかなのは、以前はたくさんいた、夜飛んでいる蛾などの虫がほとんど見られなくなったことです。捕るべき虫がいなければコウモリは来ません。虫が減った原因は、最近増えた樹木の伐採と徹底した下草刈りのせいで、幼虫が食べる植物や、成虫が潜む場所が減ったからでしょう。夜しか現れず見たこともないコウモリが減っても問題ないと思うかもしれませんが、虫の減少は、野鳥などそれを食べる多くの生き物にも影響しています。井の頭公園の自然は都民、とりわけ地域住民にとっては宝です。木々の高齢化や蚊などが媒介する伝染病など、最近は管理上の難しい問題がいろいろ生じています。しかし、それらの被害を防ぐことと、貴重な生き物を守ることは、もう少しきめ細かい管理をすれば、両立できるはず。

小田原 濤 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

36 カイツブリが近いわけ

カイツブリと人の距離がとて近いのが、井の頭池の際立った特徴です。この池のカイツブリは人のすぐそばまで泳いでくるし、丸見えの場所で子育てをします。その理由のひとつはじめる人がいないからですが、それは近隣の公園でも同じでしょう。他の池と違うのは、七井橋や弁天橋など、低い橋が架かっていることです。

普段は飛べないカイツブリは、目のすぐ上の橋に人が大勢いても、生活のために橋をくぐらざるをえません。最初は警戒しますが、危害を加えられないことが続けば、人は敵ではないと理解し、警戒距離が縮まるのです。写真の巣は七井橋から3mも離れていないので、丸見えです。今年6番目に池に来たペアは、しばらくは人から遠く離れた場所にいたのですが、七井橋から近い他のペアの巣を奪ってヒナを孵し、その後ここに引越しました。カイツブリを観察しやすくしてくれている橋は、カイツブリと人をさらに近づける働きもしているのです。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.coocan.jp/>

36 カイツブリが近いわけ

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.coocan.jp/>

36 カイツブリが近いわけ

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.coocan.jp/>